

いろんな塾の  
いろんなイマが見えてくる

# 私塾REAL vol.6

本紙編集主幹 千葉 誠一



## 株式会社メイツ 進学塾メイツ、 個別指導塾WAYS

代表取締役社長 遠藤 尚範氏  
取締役副社長 伊藤 史弥氏

「オリジナルの学習アプリと管理システムでブラック問題を解決し、業界をホワイトにしたい!!」

高田馬場に本部を置く「メイツ」を最初に訪ねたのは、2016年の10月だった。あれから半年が過ぎて、同社はさらに進化していた。アプリ活用の指導のしくみだけでなく、英検アプリやrecoという学習塾管理システムも完成し、自社の進化発展だけでなく、他塾にもそれを提供していきたいという強い意欲がある。

同社の遠藤尚範社長と伊藤史弥副社長に取材した。

進学塾メイツの指導風景



### 社内に エンジニア デザイナーが 15人いる理由とは?

千葉 まず規模的なものを教えてください。

遠藤 都内12教室で生徒数が約700名です。運営と開発を担当する従業員は100名で、正社員が30名、学生アルバイトが70名という陣容になっています。そのうち、エンジニアデザイナーが15名で教育IT開発と教材作成の会社として組織されています。

千葉 ここに至った沿革みたいなものを簡単に教えてください。

遠藤 早稲田大学の学生時代に塾講師のアルバイトをしていましたが、それがブラックで、改善は難しいというところで、独立して塾を開くことにしたのです。2010年に「早稲田メイツ」という名前が創立しました。レベルの違う生徒を集団指導の塾で指導するのは難しいと気づき、2012年のミドルメイツから2013年に進学塾メイツに名称変更して個別指導をこの場所で行うようになりました。

一人の講師でも10名から20名の生徒を指導出来るようにしたのですが、私たちと同じようなことがアルバイト講師には出来ないことがわかり、最低6人の生徒指導が出来るようにシステム化して世に広めたいと考えました。数学の出来る友人に入社してもらいアプリを開発しまして、2015年には他塾への販売に着手しました。

### 生徒の学習効果を 高める画期的 「学習アプリ」を 自社開発

千葉 進学塾メイツの指導に使われているシステムの概要・特徴を教えてください。

遠藤 生徒の学習促進はもちろんのこと、講師の業務改善や保護者満足度UPに繋がるシステムを開発運用しています。生徒の学習効果を高め

る「学習アプリ」は、大手教材会社と共同開発し膨大な問題データから生徒一人ひとりに最適化した問題演習が可能です。間違えた問題に対して、丁寧な解説と動画、週りレコメンドによる自立学習のフォローをします。また、間違えた問題、間違えそうな問題に絞って重点的に何度も学習できるため効率的な成績アップが可能です。

さらに、正答率の低い単元がひと目で分かり、ピンポイントな苦手対策ができます。問題演習では自動採点により即時フィードバック、講師の丸つけが不要です。演習後の学習成果の見え化により生徒のやる気を引き出します。

次に、指導中の講師の時間を最小限にする「指導アプリ」は、学習結果を講師のタブレットに即時反映することで適切な指示出しが可能になっています。

### iPadのアプリで 様々な効率化、 そして人材不足と ブラック問題も解決!!

千葉 たった1分で指導報告書が可能と聞きました。が、本当ですか?

伊藤 はい。学習結果や指導の様子を盛り込んだ指導報告書を1分で作成、保護者へ送信できます。また、定期テストに向けた教材の進捗を見える化し、今やるべきことがすぐに

把握できます。さらに、指導の予定を入力するだけで入室による出入り自動振り分けができるスケジューリング管理も可能です。そして、学習方針や指導履歴、成績などの共有で初めて担当する講師でも楽々引き継ぎ可能になります。

### ベテランの 経験値を活かしつつ 若手の質を 高めることが可能

千葉 IT化は今後、塾教育界をどのように変えていくとお考えになりますか?

遠藤 三つあると思います。一つは、「生徒の学習や講師の業務が効率化」され

ます。二つ目は、「学習データの蓄積により教育をアップデート」できるようにになります。そして、三つ目が「今まで主として知識を教えていた先生の役割が変わる」ことになります。

ベテランの先生の経験値が共有できるので、若手の先生の仕事の質が上がります。ベテランの先生も自分の経験値を活かしつつデジタル活用が可能になっていくので、幅広い塾で無理なく導入し、クオリティを高めることが出来ると思っています。

千葉 生徒集団を講師1人が把握しながら指導できるシステムをつくらうと思うのはどうですか?

遠藤 少し繰り返しのようになりますが、個別指導のニーズが高まりながら、塾講師の人材不足やブラック問題がありました。その中で1対多人数の個別指導にたどり着きましたが、従来の指導システムだと3〜4人が限界でした。

千葉 これからの目標や実現したい夢について教えてください。

遠藤 アプリの開発と進化によって、塾のブラック問題を解決しホワイトに出来るという提案をしていきたいですね。当社では現在一日7時間労働にしています。これを6時間半から6時間にしていきたいと考え

ています。先生は子供に直接接する仕事ですから、ブラックでは困ります(笑)過重労働ではおかしいのです。英語の4技能が目玉ですが、どの順番で勉強するとより効果的なのか、ベテランの先生は経験値で知っていますから、それをアプリ化すれば若手の先生でも同じ経験値を指導に活かすことが出来ます。

### その2 「学習塾管理 システムreco」

指導中の講師の事務作業を大幅に削減。講師の情報共有をすべて「見える化」して管理。手間をかけずに保護者の満足度と通塾継続率をUP...など、指導中のあらゆる業務を効率化するシステムがreco。1分程度で質の高い指導報告書が作成可能。1教室月額25,000円(税別)で人材不足とブラック問題を一気に解決できるシステム。



### その1 「学習塾専用 英検アプリ」

英検対策講座の参加者は合格率100%達成、指導内での英検対策が86.7%(通常55.1%)で、いずれも講師の指導無し。英検教材3冊分を収録。実力診断テスト後に苦手リストで弱点克服。ネイティブの音声付きの演習問題でリスニング対策も万全。合格に必要な語彙力を会話表現までカバーし単語力強化。



現在、教育2.0ですが、これが2.1になり3.0にもなるしくみ作りを取り組み、将来的には、公文のように海外へ日本の最新の教育を輸出したいと考えています。

(2017年4月11日、東京都新宿区高田馬場のメイツ本部にて取材)